# 公共交通シンポジウム2023

# “シームレスな移動”の実現に向けた地域公共交通

日　　時 ：令和５年１月23日（月）14:00～16:45
開催形式 ：現地・オンライン配信
講　　師 ：本省モビリティサービス推進課　課長補佐　粟井 勇貴
群馬県　県土整備部交通政策課　道路交通計画室　室長　松田 隆行氏
京浜急行電鉄株式会社　生活事業創造本部まちづくり統括部　課長　佐々木 忠弘氏
モビリティジャーナリスト　楠田 悦子氏

〇登壇いただいた講師の方

本省モビリティサービス推進課
粟井課長補佐

群馬県
松田氏

京浜急行電鉄株式会社
佐々木氏

モビリティジャーナリスト
楠田氏

令和５年１月23日（月）に公共交通シンポジウム2023「“シームレスな移動”の実現に向けた地域公共交通」を、日比谷コンベンションホールとYouTubeLiveでのオンライン配信とのハイブリッドで開催しました。

本シンポジウムは「公共交通におけるデータ連携の高度化に向けた検討会」が令和４年６月に公表した取りまとめの解説のほか、データの連携・利活用に関する先進的な取組を紹介し、「シームレスな移動」の実現に向けたデータ連携の高度化の意義について考えるという趣旨で開催しました。現地参加は55名、オンライン参加は255名の方々に事前に申込みをいただき、当日は現地参加者41名、オンライン同時最大視聴者数は174名となりました。

まず、本省モビリティサービス推進課の粟井課長補佐から「交通分野におけるデータ連携の高度化に向けて」と題して話題提供がありました。

MaaSは交通モード間や多分野との連携が重要で、実現するための手段としてデータ連携が必要不可欠となっている中、現状「シームレスな移動」の実現に至っていない部分が課題であるため、“データ連携の高度化”という観点から、課題を解消できないか検討し令和４年６月に公表した取りまとめ等について解説がありました。

続く事例発表では、群馬県の松田氏から「群馬県におけるバス情報オープンデータ整備と今後の展望について」と題して、京浜急行電鉄株式会社の佐々木氏から「地域とつくるエリアマネジ

メントと MaaS の展望」と題して、データの連携・利活用に関する先進的な取組についてご説明いただきました。

基調講演では、モビリティジャーナリスト楠田氏から「データ活用と MaaS の展望」と題して、海外での事例について紹介いただきながら社会の課題解決にどのように移動手段を活用するかについて、お話しいただきました。パネルディスカッションにおいては楠田氏をコーディネーターとして、ご登壇いただいた講師の皆様とデータの連携・利活用をテーマにディスカッションを行いました。

〇パネルディスカッションの様子

参加いただいた方からは、「各分野で活躍されている方々の今後の MaaS のあり方について伺うことができて、大変勉強になった。」「MaaS やオープンデータ化が業務効率化にも寄与することが分かり有意義な政策だと思った。」との御意見をいただきました。

開催にあたり御協力いただいた皆様には、事務局一同、心から感謝申し上げます。また、本シンポジウムの内容が、ご参加いただいた皆様のお役に立つことができましたら幸いです。

【参加者感想（一部抜粋)】

- 今後のデジタル化、データ連携の進む方向がわかり、大変勉強になった。
- 各事業者が何を目的に何を行動するかを気づかせてくれるシンポジウムだった。
- 事例発表が具体的で興味深かった。
- MaaS について丁寧な説明があり、徐々に理解できた。
- 今後を見据えた動きなどを聞けたら良かった。
- MaaS の進め方について、進行レベル別での講演を深掘りしてほしい。